［認知症対応型共同生活介護用］

1．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成　20　年　10　月　26　日

【評価実施概要】

事業所番号	２１７０７００４６８
法人名	株式会社 介護社希望が丘
事業所名	グループホーム 本巣ひまわり
所在地	岐阜県本巣市七五三７０９番地１ （電話）　０５８－３２０－５０２０

評価機関名	ＮＰＯ法人ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町３丁目７番地　尾関ビル		
訪問調査日	**平成20年10月20日**	評価確定日	**平成20年12月15日**

【情報提供票より】　（平成　20 年　10 月　1 日　事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成　15 年　2 月　4 日		
ユニット数	3　ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤　11 人,非常勤　11 人,常勤換算　16.6 人	

（２）建物概要

建物構造	軽量鉄骨平屋　造り
	1　階建ての　1　階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	39,000　円		その他の経費（月額）	9,000～　円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　180,000円）		有りの場合 償却の有無	有（退居時）
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900　円		

（４）利用者の概要　（平成　20 年　10 月　1 日　現在）

利用者人数	27　名	男性	9　名	女性	18　名
要介護１	5　名	要介護２	4　名		
要介護３	8　名	要介護４	6　名		
要介護５	4　名	要支援２	0　名		
年齢	平均　81.9　歳	最低	67　歳	最高	97　歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	堀部クリニック、岐阜中央病院、なかむら歯科、揖斐厚生病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周辺は緑豊かな柿畑などがあり、安全性が高く散歩に適しており、隣接する小学校からは運動場で遊ぶ子供の声が響いてくる環境にある。3ユニットのこのホームは、中庭をはさみ「コの字型」に3棟がならぶ平屋建てとなっている。一切鍵をかけず、利用者は制約のない自由な移動によって、畑の作物の手入れや花の水やりに楽しみを持って関わることができる。「見守り重視」の理念を実践し、自立を支援し安全面にも配慮して日々のケアに努めている。重度化・終末期も連携医とホームがしっかり手を結び、ホームでの暮らしが利用者の人生のラストステージとなるべく、地域と一体となって思い出作りに取り組み、様々な行事参加の写真は、ブックにまとめ、家族に送れるようにしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回評価の改善課題は7点であったが、その一つひとつに改善の意識が見られた。引き続きの課題はトイレであるが、構造を変えることは現段階では難しく、職員の誘導で片方のみの使用に切り替えることを話し合い、改善を図ろうという努力が見られた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	管理者は自己評価の取り組みの意義を理解しており、各リーダーから出された課題を集約し、計画・実行・確認の作業をユニット間会議で行い、取り組んでいく場を設け改善と質の向上に繋げるよう図っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	2ヶ月に1度の開催には多くの参加者があり、地域内からの情報や相談も取り入れ、ホームの報告だけでなく、様々な課題について意見交換を図っている。課題の検討により、地域の協力も得やすくなり、今まで以上に迅速な対応となってきている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族との関係性の構築・信頼を強化する為、訪問時の声かけや電話による連絡に加え、毎月の通信に個別の状況報告や本人の体調や暮らしぶりも載せて送付し、家族の安心感を得ている。個別状況報告により、家族の訪問が増えるなどの明らかな効果も出たことは、職員の励みとなっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	隣接する小学校からは毎年の卒業式にも招待を受けるなど、機会ある毎にホームを訪れる子供達との暖かい交流を行っている。地域の行事参加が増えたり住民が気軽に介護相談に訪れるなど地域に溶け込んだホームとなっている。防災面でも元消防士が職員になっていることから、災害時・緊急時など安全面に配慮し、本人と家族の安心を得ている。

２．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に地域との密着を表現する言葉はないが、「口を出さず手を出さず見落さず」など自分でできることをケアの目的とし、地域の住民との共生・互助の心を持って日々支援を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表者・管理者・事務長・職員が理念に沿ったケアを継続できるよう毎朝行う各ユニットリーダーとのケア会議は、具体的に、また、その日その日に必要なことを柔軟に伝達し、その内容は全職員も把握している。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事や隣の小学校の運動会・文化祭へ参加している。近くの田で小学生が作った米のおにぎりを味わうなど、地域との自然な交流は利用者の喜びとなっている。地域からの介護や生活保護の相談も受け、地域のニーズに応える努力をしている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に関してはユニット毎の報告を集約しさらに管理者がまとめ上げたものである。ホーム全体で課題の改善計画を立て、手を付けられるものから順次改善に努めている。	○	職員が自己評価に関わることが、そのままホーム全体の質の向上に繋がるため、新たな気づきや発見を日常のケアに活かし、改善の意識と意欲を持って日々の支援に当たれるよう一般職員の参画に期待したい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、広域連合の担当職員・民生委員・住民代表・家族代表・地域包括支援センター職員など多くの参加がある。ホームの現況報告に留まらず、ノロウイルスの勉強会や評価についての意見、消防設備点検・行事計画の報告も合わせて行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月2名の介護相談員を受け入れ、空室情報などを広域連合に報告し、行政とは協働の形を取り、生活保護の対応等々についても検討の場を持つ体制にある。頻繁に行き来し、得られた情報を活かし、ケアとホームの質の向上に繋げている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	前回の改善課題であった「個別状況報告」は職員間で話し合い、金銭出納や暮らしぶりなど個々の状態を毎月送るホーム便りに同封するようになった。家族の訪問時や足の遠い家族にも電話や便りで連絡・報告をし、電話の内容や伝達事項も記録されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別状況報告を送ることにより家族の訪問が増え、面会時にも気軽に管理者に希望を言える雰囲気ができている。家族から聴き取った意見や希望は、即時に毎朝のケア会議で話し合い、サービスの質に繋げる努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者を始め、開所当時からの職員が理念に沿ったケアを心がけ、利用者の1人ひとりの好みを把握して日々の支援をしている。3ユニット間は全職員がローテーションで夜勤を行い、馴染みの関係が利用者の安心に繋がることを優先とし、利用者第一の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	看護師による内部研修、段階別の外部研修も行い、その内容はケア会議で報告し、全職員が共有できるよう計らっている。代表者や管理者は共に研修への参加を積極的に推進し、外部研修は費用負担・勤務扱いとなるなど、側面からの支援を行い、職員の意欲の向上に繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム自体の歴史も長く、協議会の役員を務めていることもあって同業者の中でも中枢を担う存在である。ホームを開放して県外からの見学や相談にも快く受け、地域のみならずグループホーム業界全体の質の向上に尽力している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規の入居がスムーズに馴染めるようにホーム訪問・面談や聞き取りを重ね、入居に関しては職員からの意見も取り入れている。 ショートステイの認可を受けており、ベッドが空いている場合は体験入居も可能としている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の通り、手と口出さず、と見守りながら日々の支援を行っている。日常生活を利用者と共に過ごし、利用者の思いや喜怒哀楽などの感情を受け止めながら、共に寄り添うケアを行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や趣味を把握し、新たな気づきも加え、日常の中で活かす支援を行っている。利用者と職員の良い関係ができており、また、職員間の連携により、利用者の希望や小さなサインも見逃さず、毎朝の会議で伝達・共有されている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	前回の改善課題であった「ユニット内での把握と検討」については即改善を行い、ユニットに持ち帰った課題を全職員に伝達する方法に変更し、課題の解決に向け共有している。家族の意見も介護計画作成の都度聞き取り、訪問時や郵送などで説明する努力をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の点検は3ヶ月毎に、定期の見直しは6ヶ月毎としているが、急変時・必要時には柔軟に対応し、家族への連絡も記録に残してこまめに行っている。理念通りの「見落とさず」を実践するため、見落としのないように、毎朝のケア会議でケアの方向性も合わせ確認をしている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望する買い物・外出などにも柔軟に応じ、利用者と家族の要望には出来る限り対応したいと、日々の支援をしている。かかりつけ医の受診は、半径5km以内はホームが行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医（内科・歯科・精神科）との往診連携は、利用者の体調管理と家族の心の支えにもなっている。精神科医は、認知症に理解の深い専門医であり、利用者の日々の状態を把握し、穏やかな生活ができるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	代表者・管理者及び職員は、ケアの延長線上に終末期があると考えており、既に7人の看取りを行った。看取りを避けるグループホームが多い中、看護師も数人配置し医療的な対応も可能としている。入居の段階から話し合いを行い、今後の基本的な取り組みも合わせ、家族と確認を重ねている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回の改善課題であった「トイレのプライバシーの課題」については、職員の対応でカバーできるよう職員間で話し合いを重ねた。個人情報については、契約書に盛り込み家族の同意も取っている。記録等の保管は専用のロッカーで管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはその日の天候・利用者の体調や希望によって柔軟に対応している。起床や就寝時間はおのおのに任せているが、朝食は、全員が顔を合わせた上で食事を開始している。ドライブや買い物、献立作成等、利用者の楽しみに繋げられるよう支援をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望に合わせ、各ユニットが冷蔵庫の中身と相談し、日々の献立を決めている。食事介助が必要な利用者には、職員がゆっくりと介助し、状態に合わせ、塩分控え目・トロミ・刻みなどにも柔軟に応じている。利用者は配膳やお盆拭きなど食事の準備にも参加し、精を出す姿が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴であるが、夏場のこまめなシャワー浴や、重度の利用者には職員2人がかりで抱えて入浴させるなど、職員達の心こもった努力が見られる。毎日の希望には職員調整を行い、入浴の順番も公平になるよう工夫をしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	夏には、職員が作った道具により、職員と利用者が流しそうめんを楽しんだ。利用者達が草取りに励んだ畑には、ぶどうやキーウィなどの果実がたわわに実り、収穫を今か今かと楽しみにしている利用者も多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や体調に合わせ、神社や柿畑など近隣の散策やドライブ、食品の買い出しにも同行している。前回評価の改善課題であった重度化した利用者に対する外出支援は、チルド式の車椅子で庭での外気浴など、少しでも四季を感じられるよう工夫を重ねている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害をホームは認識しており、ホーム内3ユニット間の行き来は自由にしている。また出て行く傾向のある方には見守りを心がけているが、家族の同意も得てＧＰＳを携帯してもらい、「もしも」に備え、行動を把握して安全確保をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の訓練を実施するだけでなく、煙探知機の整備も行った。利用者も職員と共に広場に参集する訓練も行った。防火協会からの表彰も受け、災害時に対する意識はホームとして目を見張るものがある。備蓄の食品・飲料水も適宜、確保している。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特にカロリー計算はしていないが、食事摂取量は毎日記録され、体重の増減によって栄養管理が行われている。サーバーからお茶を自由に飲めるよう工夫したり、ペットボトルを持ってもらい水分の補給に努めている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングには絵画や利用者の作品が配置され、大人っぽい落ち着いた雰囲気となっている。ホーム全体は明るい採光で、玄関前には季節を感じさせる花や緑が茂り、外気浴を楽しむ利用者も多い。行事参加のスナップ写真からは、ほほえましさと安らぎが伝わり、ホームと利用者は同じ家族であるという絆が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベッド、タンスなどは備え付けであるが、居室の壁面や空間には在宅時に使い慣れた種々の小物や写真・書などがギャラリーのように飾られている。間取りは同じであるが、利用者が使いやすいよう居心地の良い個性ある居室となっている。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。